【授業科目】情報科学演習　　Practice of Infomation Science

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
高崎 昭彦	2年次 後 期	必 修	1	30	演習	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／情報を活用する上での情報倫理(モラル)や社会人として基礎的なコンピュータ・リテラシーを講義する。情報を収集し、正しく評価し、有効に利用し、広く発信(表現)する能力やルールを学び、今後の学校生活や社会で活用していくために必要かつ基本的な考え方・技術を身につけることを目標とする。情報を活用し、グループごとにディスカッションにてテーマ決め、聴き手にわかりやすい効果的なプレゼンテーションの作成を行い、聴衆を意識したプレゼンを実践する。発表会では会の進行についても教授する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法/提出された課題について、主に口頭でコメントする。プレゼンテーション実技のﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸは教員だけでなく、他学年の学生、教員からも意見を出してもらい最終講義でフィードバックする。
実務経験に関する 授業内容	病院で臨床検査技師として学会発表を行った経験及び、企業の研究職に携わった経験を持つ教員が、学会発表のためのPCスキル、データの取り扱い及び、発表スキルを実践的に教授する。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	①コンピューターセキュリティを理解して安全に利用することができる。 ②文書作成ソフトを有効に利用することができる。 ③表計算ソフトを有効に利用することができる。 ④統計や集計処理をすることができる。 ⑤プレゼンテーションソフトを利用して、プレゼンテーションを行う事ができる。
時間外学習に 必要な学修内容 および 学習上の助言	時間外学修としてプレゼンテーションソフトを使用し、様々なことを試してみるとよい 第 1～15 回事前学習：パソコンを使用して各単元の使用法について予習をする（20分）。 第 1～15 回事後学習：演習で習得した内容を使い、他の授業レポートや課題などの作成に活用する(20分)。プレゼンテーションの練習をする（40分）。 ※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第 1 回　情報科学演習ガイダンス　テーマの選定方法、発表準備について 第 2 回　グループディスカッション；テーマの選定 第 3 回　グループディスカッション；テーマの選定 第 4 回　グループディスカッション；テーマの選定 第 5 回　グループディスカッション；テーマの選定 第 6 回　グループディスカッション；情報の収集、統計処理 第 7 回　グループディスカッション；情報の収集、統計処理 第 8 回　効果的なプレゼンテーションについて 第 9 回　グループディスカッション；プレゼンテーションデータの作成 第 10 回　グループディスカッション；プレゼンテーションデータの作成 第 11 回　学会の進行、役割について 第 12 回　プレゼンテーション実技（予演会） 第 13 回　プレゼンテーション実技（予演会） 第 14 回　発表会 第 15 回　発表会、総括
	全て 高崎
評価方法 評価基準	成績はプレゼンテーション実技、内容の評価（90%）に、エフォートを換算して算出する。 演習態度（演習への取り組み）10%
教科書	資料を配布する。
参考書等	松戸隆之著『臨床検査学講座 情報科学』 医歯薬出版株式会社
学生への メッセージ	情報収集をし、情報から得られることを考え、その情報を他者にどのように伝えるか。この演習を通して考えてみましょう。